

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	17102002	研究期間	平成17年度～平成21年度
研究課題名	西アジア死海地溝帯におけるネアンデルタールと現世人類交替劇の総合的解明	研究代表者 (所属・職)	赤澤 威（高知工科大学・総合研究所・教授）

【平成20年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究の目的達成に向けての4課題の研究は、おおむね順調に進行している。

旧人・新人交替の「学習能力差仮説」の理論化と実証性について、次の点を指摘したい。

1. 環境適応において、新人の方が学習能力と技術の開発・継承の点で進化していたことを示す考古学的資料の一層の発掘・蓄積と「革新的変化」を実証する図式作成が不可欠である。
2. 旧人の化石頭蓋からの「化石脳」の復元と脳機能地図の外挿などを進め、脳の働きと学習能力差に関する古神経学的解釈を解剖学的に検証することが期待される。
3. 学習能力差による交替劇と同時に、旧人絶滅の大きな外的要因、例えば、気候変動、人口動態、疾病流布なども視野に入れる必要がある。

【平成22年度 検証結果】

研究進捗評価結果どおりの成果が達成された。